

皆様

一昨年の八方・唐松で復活したWHCOBの夏合宿、3回目の今年は8月2～4日に奥日光で開催されました。以下そのご報告。

梅雨明け宣言は出たものの、明けたような明けないような空模様のまま8月に入り、2日に合宿初日を迎えました。

浅草発の東武電車に乗り込んだのは10人、日光駅で田上リーダーの出迎えを受け、いろは坂を登って中禅寺湖を左に見て「竜頭の滝」で下車。ここで銚子から5時間かけて駆けつけてくれた小川戸さん(ずいぶん久しぶりにお会いしました)が合流し、メンバー12人が揃いました。

今回のメンバーは、小川戸、西海(田中)…以上2名3期、田上リーダー、菅原(猪間)、植村、大竹、岡林、徳淵、西海、花田、五十嵐…以上9名4期、齋藤サブリーダー…8期

昨年参加の10名はそのままだ、小川戸、菅原の両氏が加わった形です。



まずは竜頭の滝を眺めてから湯川沿いの道をしばらく歩いて、樹下にベンチの置かれた格好の休み場で昼食。その後戦場ヶ原の道を歩きました。

その昔、赤城山の犬ムカデと男体山の大蛇が戦ったところ、地の利があつてか男体山が勝利したという伝説の戦場です。直接関係はありませんが、箱根や十文字峠の西にある戦場ヶ原はどういう由来があるのでしょうか。(北条とか? 武田とか? ホントの合戦かな)

田上氏の車に主な荷物を託したので、身軽で快適な散策が続き、原の中の木道を坦々と歩きました。もっとも「坦々と」は歩みのほうだけで、大声での話のにぎやかなこと、騒がしいこと。

ここ日光は、我々4期生が大学2年だった45年前に光徳夏合宿で集まったところ。皆の口から出る合宿の記憶は、テントの中を小川が流れ、シュラフが水浸しになるような豪雨に遭ったという悲惨な思い出話を中心。それに比べればこの日は時々傘を開く程度の小雨は降りましたが、日照りのないのはむしろ幸いでした。



この時季多い花はピンク色のホザキシモツケとか。田上氏の説明を受けながら湿原に咲く花を観察し、男体山をバックにした泉門池、豪快に落ちる湯滝などのビューポイントで一息入れつつ湯滝左岸の、本日唯一の急登を登り切ったところで迎えてくれたのは、車で先回りしていた田上氏差し入れの缶ビール



(うまいっ！登ってきてよかったあ！！)

滝口を眺めながらのビールは格別で、身も心もほろ酔い加減で湯の湖南岸の道をフワフワと歩き、合宿の宿「奥日光小西ホテル」に入りました。

まずは白濁の露天風呂に飛び込んでから夕食前の小宴会。ここでも田上氏差し入れの地酒「四季桜」や漬物が好評で、皆が持ち寄ったアルコール類につまみ類も豊富、ほろ酔いどころか、半分でき上がったところで夕食時間になりました。



(Vサインをするリーダー、気持ちはみんなVサイン)

小川戸氏の挨拶、神戸から最遠来の徳淵氏の乾杯で始まった豪華な夕食は、お互いの近況報告(や、それに対するチャチャ入れ)などもあって楽しく続けました。

2日目。

夜中には目を覚ますほどの激しい雨音が聞えましたが、明けてみれば青空が一杯に広がっていました。この日は日光白根山への登山です。

宿のバスで丸沼まで送ってもらい、ロープウェイに乗ればそこはもう標高2000mで、目前に目指す白根山の3つの頂が威風堂々とそびえていました。

林床にカニコウモリが密生するシラビソの樹林をゆっくりと高度を上げ、森林限界に飛び出して岩や砂礫の道に入ると、花も高山植物らしい種類が急に増えてきました。



まだまだ遠いと思いながらも、トップを行く田上氏の絶妙のペース配分と騙しのテクニクに、疲れを感じる暇もなく、ただし口数だけは微妙に少なくなり、ロープウェイから3時間弱で山頂に着きました。雲が多く遠望は今一つでしたが、狭い頂上では各パーティが交代しながら写真を撮っていました。



(言い訳・・・全員の写真は誰かが撮ったので)

頂上直下の小広いところで昼食、この日も齋藤氏のザックから出てくる味噌汁、スープ、コーヒー、紅茶、緑茶とお望み次第の熱い飲み物が美味しく、宿特製のおにぎりの味を引き立ててくれました。卒業以来40年以上経ったWHC仲間が弁当をひろげている姿に、何となく不思議な感動を覚えました。

周りで昼食をとる登山者は多く、それも中高年というより高齢者が多く、ざっと見たところ我々12名は平均年齢を引き下げている感じがしました。

ロープウェイ駅まで戻り、「日本一高所にある足湯」と銘打った「天空の足湯」で、しばしの間、少し疲れた足をいたわりました。



(天空の足湯で、大根、ごぼうの品評会)

ホテルへ戻って、この日も入浴、夕食前の小宴会、豪華な夕食。その後外へ出て夜空を見上げましたが、2つ3つ位の星を数えただけ。さらにこの日は夕食後の大宴会になりました。他人の話をさえぎってまで喋り出す人が1人2人ではなく、まあにぎやかだったこと。

3日目

「最終日、この日も霧の中の朝風呂から始まりました。6時朝食、7時出発。」

・・・というのは昨年の立山合宿の報告。

今年は・・・

最終日、きょうも青空を見上げる露天風呂から始まりました。7時15分朝食、8時出発。この日は宿のバスでまず中禅寺湖スカイラインの展望台へ、ここから望む男体山の緑、空と湖の青さが目にしみました。



次いで半月山駐車場へ、ここからなんと富士山が見えました。我々の到着を待っていてくれたかのように富士山はすぐに雲の中へ隠れましたが、奥秩父連山がしばらく視界の中にありました。

バスはここまでで、後は歩いて半月山へ登り20分、ここから突き出す八丁出島は紅葉の時に眺めるが最高とのこと。半月峠を経て狸(タヌキと描いてムジナと読む?)窪への下り1時間、とはいえ結構本格的な山道でした。

中禅寺湖岸の道をしばらく歩いて、イタリア大使館別荘の湖畔で昼食。前日頂上に立った白根山は湖の正面の雲の中にありました。



小川戸氏とは中禅寺で別れて下今市まで行き、今合宿の打ち上げを挙行了しました。

標高1300mの中禅寺から一気に蒸し暑い都会へ降りてきましたが、それがまた生ビールを美味しくし、さらに冷酒と無国籍料理の数々。飲む口と、食べる口と、それにここでも喋る口とを全員が駆使して2時間半、にぎやかなうちに合宿を終えました。



奥日光は田上氏の地元ですが、地元というだけでこれだけのことが出来ようもなく、周到な計画と、実行面での数々のご配慮に感謝いたします。齋藤氏にも昨年に引き続き本当にお世話になりました。

好天にも恵まれ、奥日光を多角的に楽しむことが出来ました。皆さん、ありがとうございました。ではまた来年。

09年夏合宿サブリーダー(補) 五十嵐 昭